ア 生徒の状況	学校評価Aと学校関係者評価の評価区分		学校評価Bの評価基準		
		きわめて良好		5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100％以上達成
		良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99％達成
		おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79％達成
		やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59％達成
		努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39％以下の達成

Ⅰ　自主的・自立的な生活

児童生徒の状況		学校評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
集団生活のルールを守り，規律ある生活習慣を身に付けて生活しようとしている。また，地域に貢献しようとする意識が高まってきている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	ふるさとキャリア教育の取組がたいへん充実している。発達段階に応じた取組の成果が，発表のときの張りのある声，元気なあいさつなどにつながっている。生活の様子を見ていると，場や自分の立場に応じた言葉遣いに，やや課題が見られる。相手を意識した気持ちのよい言葉遣いが自然にできるようになってほしい。
	年度			

学校の評価の概要と改善策	
	【前期（→年度）】〇毎朝元気にあいさつして登校する姿がたくさん見られた。学級ごとのあいさつ運動や，各学級による継続的な指導により，子どもたちの元気なあいさつが習慣化してきている。→相手を意識した気持ちのよいあいさつにしていくために，児童会を中心にあいさつについて話し合う場を設定していきたい。〇自主的な学びを重視し，ふるさとキャリア教育の一環として行う集会の企画・運営は立候補した実行委員が担当している。その成果として，みんなで協力しようしようとする共感的・協働的な姿や，行事をやり遂げた充実感の高まりが見られてきている。→今後も，子どもたちの手で進めていけるように意図的に場を設定したい。
	【年度（→次年度）】

	実践課題		主な取組	学校評価B 前期	学校評価B 後期
1 基本的生活習慣の確立	(1)	明るく元気で心のこもったあいさつと規範意識のある校内生活の励行	・あいさつ運動，継続的なあいさつ指導（学級・全校・地域・家庭）・「扇田っこの約束」の徹底	3	
2 夢やよりよい生き方の追究	(2)	「夢育て」による夢やよりよい生き方を考える機会の充実	・夢をはぐくむ環境　・扇田のためにがんばる機会　・キャリアパスポートの活用　・子どもハローワークの奨励	3	

〔各種データ〕 ※データは（前期）年度　■職員　□保護者　◎児童　★実践事項

[1に関するデータ]

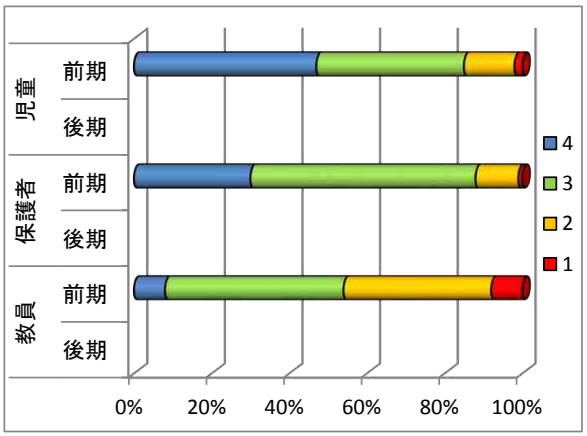
★ よりよいあいさつの習慣化を目指した取組
- ・にっこりデー（毎月25日）のあいさつ運動
- ・あいさつ名人の選出
- ・あいさつの木運動の実施

★ PTA執行部，生活環境部によるあいさつ運動の実施

★ 児童一人一人への勇気づけ，励まし，奨励の声掛け

【4月　にっこりデーのあいさつ運動（6年生）】

■□「子どもたちは，元気で明るく心のこもったあいさつができている。」
◎　「あなたは，明るく元気で心のこもったあいさつができましたか。」

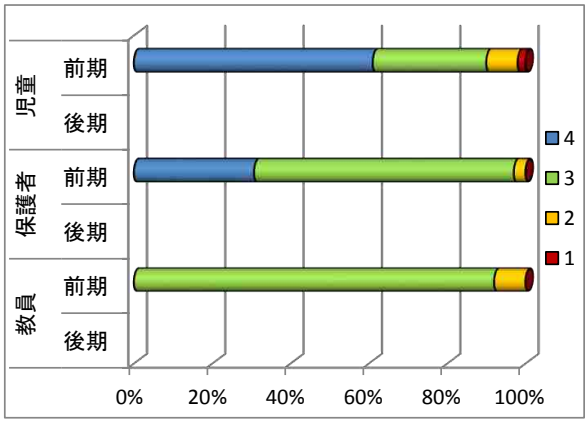


[2に関するデータ]

★ 夢育て（ふるさと・キャリア教育）による取組
- 〇玄関ホールに一人一人の「夢」の掲示
  - ・顔写真と一人一人の夢の掲示，夢カードの掲示等
- 〇「扇田のために」がんばる教育活動の充実
  - ・ふるさと集会（6月4日）
    ～ふるさとのよさを知る「ふるさとクイズ」と校内ウォークラリー～
  - ・トワイライトコンサート（9月17日）
    ～地域の方々に元気になってほしいという願いから5年生が企画～
  - ・比内地区小・中学校合同アルミ缶回収作業（8月20日）
    ～小学校と中学校が連携しての地域貢献活動への取組～
- 〇子どもハローワークへの奨励および取組紹介
- 〇キャリアノート，キャリアパスポートの活用

【ふるさと集会校内ウォークラリー】　【比内地区合同アルミ缶回収】

■□「夢やよりよい生き方につながる取り組みをしている。」
◎　「あなたは，夢や目標をもって毎日の生活をがんばることができましたか。」



ア　生徒の状況

Ⅱ　思いやりの心・たくましい心

児童生徒の状況		学校評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
互いに認め合い，切磋琢磨し合いながら安心した学校生活を送り，豊かな人間性をはぐくもうとしている。	前期	おおむね良好	良好	保護者ヒアリングで「子どもは学校が楽しいとよく話す」という声があった。担任の先生方が，よい雰囲気の学級づくりを心掛けていることが授業参観からも伝わった。読書指導については，本に親しませるための手立てがよく講じられていると感じた。習慣化はなかなか難しいが，引き続き継続した取組をお願いしたい。
	年度			

【前期（→年度）】〇児童理解を深めるため，「児童を語る会」を毎週開催している。全職員の共通理解の下で，配慮が必要な児童の情報を共有し，組織で指導・支援に当たっている。→問題行動等の情報もあるが，児童のがんばりなどプラスの情報も共有する。価値付けする言葉掛けを増やすことで自己肯定感，自己有用感を高めていく。〇縦割り班活動などの「異学年交流」や「思いやりの槻の木」の取組により，相手を思いやる気持ちや人の役に立ちたいという意識が高まりつつある。→コロナの影響で制限がある中だが，集団の中で役に立つ体験ができる活動や異学年交流を積極的に進めていく。〇読書の習慣化は課題である。→昼読書を軸に，読書を習慣化する取組を充実させる。

	実践課題	主な取組	学校評価B 前期	学校評価B 年度
3　思いやりの心と奉仕の態度の育成	(3)　互いのちがいを認め合い，ともに高め合う学級づくり	・児童を語る会　・教育相談の実施　・生徒指導の機能を生かした学級経営　・道徳の時間の充実	3	
	(4)　思いやりの心と奉仕の態度を育てる特別活動の推進	・思いやりの槻の木活動　・縦割り活動　・異学年交流　・比内地区合同ボランティア	3	
	(5)　豊かな心を育む読書活動の充実	・昼読書の内容の工夫　・おうち読書の奨励 ・必読図書の選定　・読み聞かせ活動の充実	3	

〔各種データ〕 ※データは（前期）年度　■職員　□保護者　◎児童　★実践事項

[3に関するデータ]

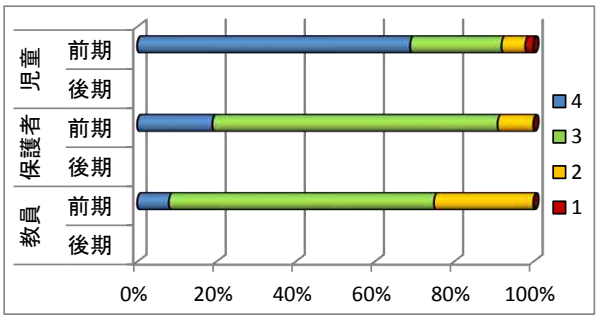
★ 児童を語る会・特別支援教育推進委員会
- ・全職員による児童理解の徹底，情報の共有
- ・指導，支援の方向性について共通理解

★ 教育相談・いじめアンケートの定期的な実施
- ・児童の声に耳を傾ける機会を意図的に設定
- ・いじめの未然防止，早期発見，早期対応の徹底

★ 生徒指導の機能を生かした授業と学級経営
- ・共感的，協働的な雰囲気のある学級づくり
- ・自己有用感が高まる集団の絆づくり，自己決定の場の設定

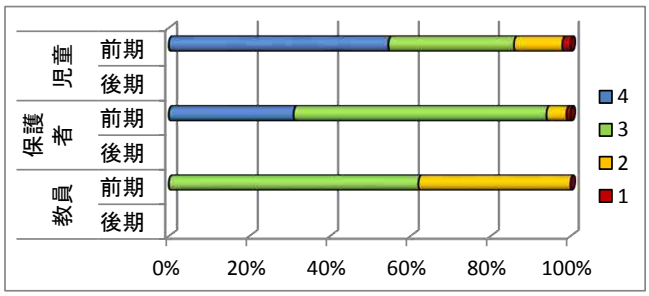
★ 道徳教育，「特別の教科 道徳」の授業の充実
- ・自分ごととして捉え，考え議論する道徳の実施

■□「互いのちがいを認め合いながら，ともに高め合う学級づくりに努めている。」
◎「あなたは，互いのよさを認め合いながら，友達となかよくできましたか。」



[4に関するデータ]

■□「子どもたちに思いやりや奉仕の心が育っている。」
◎　「あなたは，みんなと協力しながら，進んでボランティア活動に取り組むことができましたか。」



★思いやりと奉仕の心を育てる取組の具体例
- 〇思いやりの槻の木（随時）
- 〇ペットボトルキャップの回収（随時）
- 〇大館市子どもサミットへの参加（7／27）
- 〇比内サミットへの参加（6／8）
- 〇ふるさと集会　ふるさとのよさを学ぶ「ふるさとクイズ」（6／4）
- 〇異学年交流による「花いっぱい活動」
- 〇幼保小交流　なかよし交流会（前期は延期）
- ・比内地区小・中学校合同アルミ缶回収作業（8月20日）

【異学年交流花いっぱい活動】

【異学年交流　縦割り遊び】

[5に関するデータ]

★ 読書活動の奨励
- ・カードの活用，昼読書の時間の設定，おうち読書の奨励（毎月第4金曜日）
- ・読み聞かせ会の実施（PTA学校図書部）

★ 読書環境の充実のため，教育振興費を活用した図書購入

【PTA読み聞かせ】

■ □　「子どもたちに進んで読書する習慣の定着を図っている。」 ◎「すすんで読書ができましたか」

◎ 児童　→よい（65%）　おおむねよい（20%）　やや不十分（12%）　改善（2%）

■ 保護者→よい（17%）　おおむねよい（57%）　やや不十分（23%）　改善（3%）

□ 教員　→よい（0%）　おおむねよい（54%）　やや不十分（46%）　改善（0%）

ア　生徒の状況

Ⅲ　健康と体力

児童生徒の状況		学校評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
食や運動を通じて健康や体力への関心をもち望ましい生活習慣を形成しようとしている。	前期	おおむね良好	良好	ロングタイムのマラソンは，このあともぜひ継続してほしい。外部講師を招いての食育教室は，内容がとてもよかったという保護者の声を聞いている。よい取組は継続してどんどん実施してほしい。
	年度			

学校評価の改善概要と	
	【前期（→年度）】〇体力向上のための取組として，ロングタイム（業間）を活用してマラソンタイムを設定している。また，6月に実施した体力テストの結果から，傾向を分析し，本校の強みや課題を把握した上で単元構成を工夫して指導に当たっていく。→運動に親しませることも念頭に置いて指導に当たる。〇栄養教諭による食育指導，養護教諭による歯みがき指導がたいへん充実している。その取組の成果を保護者にもタイムリーに伝えるため，「保健だより」を定期的に発行しており，保護者から高い評価を受けている。〇メディアコントロールについては課題も多いため，家庭に対する働きかけが必要。→「メディアコントロール週間」を継続的に設定することで意識付けを図る。

評価指標	実践課題	主な取組	学校評価B 前期	学校評価B 後期
4　健康と体力の向上	（6）　体力づくりの推進と体育学習の充実	・ロングタイムのマラソン運動 ・体力テストの結果を生かした体育学習の取組	3	
	（7）　適切な食習慣・生活習慣形成のための指導と家庭との連携	・栄養教諭による食育指導　・調査結果を生かした生活習慣指導　・ノーメディアの取組	4	

〔各種データ〕　※データは（前期）年度　■職員　□保護者　◎児童　★実践事項

[6に関するデータ]

★ 体力つくりの取組

〇マラソン運動

・カードの活用と強調期間の設定

〇外遊び，体育館遊びの奨励

〇体育学習の充実

・運動量を確保する多様な場を設定した授業

【業間運動マラソンタイム】

【新体力テスト】

★ 新体力テスト（6／18）

〇実施種目

・50m走，ソフトボール投げ，立ち幅跳び，握力，長座体前屈，シャトルラン，反復横跳び，上体起こし

〇実施結果の配付（個人票）

[7に関するデータ]

★「すこやかチャレンジカード」「生活習慣アンケート」で児童の実態を把握，結果の周知と家庭との連携

★ 歯の健康に関する指導

・歯みがき指導　・フッ化物洗口　・歯の健康教室開催

★ メディアコントロール週間の設定

・メディアコントロールを意識させるための振り返りや話合い

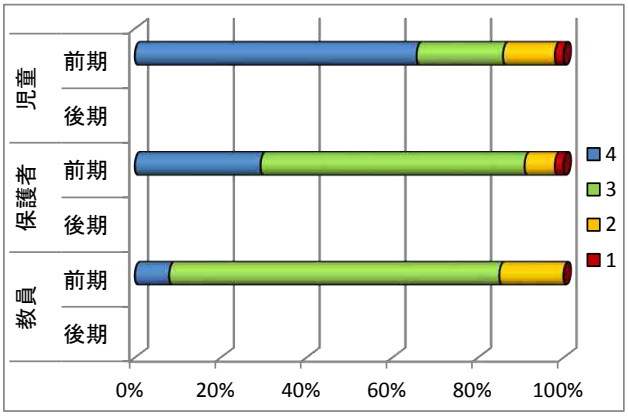
★ 栄養教諭による食育指導，外部講師による食育教室の実施

【栄養教諭による食育指導】

【外部講師による食育教室】

■□「体力つくりに取り組み，体力の向上に努めている。」

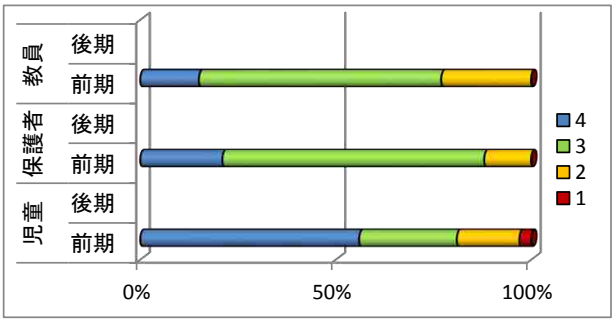
◎　「あなたは，体育の時間やロングタイム（マラソンやなわとびなどの遊び）に進んで運動しましたか。」



★昨年度の新体力テストの結果では，女子全学年が全国平均を上回っている。男子はほぼ全国平均レベルである。体育の授業は，運動量の確保することに加え，運動に親しませること重点を置く。また，多様な動きができるような体つくり運動や補強運動に取り組んでいる。

■□「子供たちに望ましい食習慣・生活習慣が身に付いている。」

◎　「あなたは，早寝・早起き・朝ご飯など，規則正しい生活をしていますか。」



ア　生徒の状況

Ⅳ　基礎学力

児童生徒の状況		学校評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基本的学習習慣を身に付け，意欲的に学習に臨み，学力の向上に向けて取り組んでいる。	前期	おおむね良好	良好	授業を参観した際に，「声の張りよさ」「学習に取り組む子どもたちのやる気」がよく伝わった。先生と子どもたちとの関係が良好であることも，授業の様子から感じられた。扇田小の先生方は指導技術が高く，素晴らしい授業実践をしていると思うので，子どもたちの力をしっかりと伸ばしてほしい。
	年度			

学校評価の改善概要	
と	【前期【→年度】今年度から，子どもたち同士で協働で学び合う時間「つきの木タイム」を授業に設定。子どもたちが言葉による見方・考え方を働かせ，生き生きと学び，互いの考えを伝え合う授業を，国語科を中心に展開している。また，学びを支える共通実践として，学習の約束の徹底や表現タイムの実施，家庭学習の習慣化の指導などを行っている。→学び合いを活発にするためには，聴く指導にも力を入れ，共感的に考えを伝え合う雰囲気づくりが重要である。学習指導と学級づくりの両輪で活発な学び合いを目指していきたい。

	実践課題	主な取組	学校評価B 前期	学校評価B 年度
5　基礎学力の定着と深い学びの実現	（8）　基本的学習習慣，望ましい学習規律の確立	・「学習の約束」の徹底　・学習環境整備　・家庭学習の習慣化（ノート展の実施・強調週間の設定）	3	
	（9）　県学習状況調査の前年度を上回る通過率の達成	・指導と評価の一体化　・学習調査の分析　・効果的な回復補充指導　・個に応じた指導の工夫	3	
	（10）　表現力の育成・深い学びにつなげる学習活動の工夫	・言葉の力を身に付ける学び合い，対話による学び「つきの木タイム」の充実，単元構成の工夫	4	

〔各種データ〕　※データは（前期）年度　■職員　□保護者　◎児童　★実践事項

〔8に関するデータ〕

★ 学習指導部「学びづくり」による取組

○学習環境の整備　・話し方・聞き方　・声のものさし

○「学習の約束」の徹底

・月別重点目標の設定による学習習慣の徹底

・学習の約束確認タイム

・強調期間の設定（振り返りカードの活用）

○家庭学習の習慣化

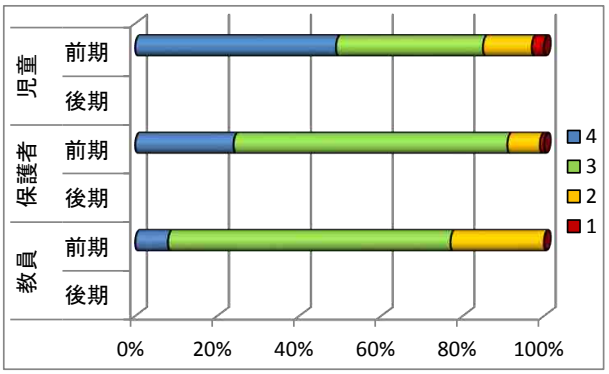
・家庭学習強調期間の設定

・家庭学習の手引きの配布，活用

・ノート展の実施

■□「子どもたちに基本的学習習慣や望ましい学習規律が身に付いてい

◎「あなたは，授業中，学習の約束をしっかり守って学習できましたか。」



〔9に関するデータ〕

★ 県学習状況調査の結果を受けた分析および回復指導の実施

・チャレンジテスト（漢字・計算）

・パワーアップタイムの設定

【学習の約束の確認タイム】

【チャレンジテスト】

【表現タイムの継続的な取組】

〔10に関するデータ〕

★ 表現力の育成と深い学びの実現に向けた取組

○言葉の力を身に付ける学習活動

（語彙を豊かにするための言語環境づくり，表現タイム，読書意欲を喚起する環境づくり）

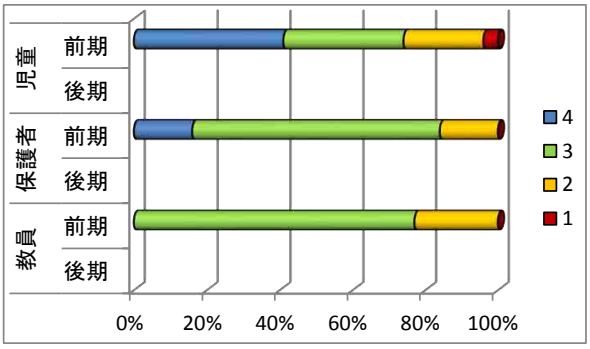
○実態と学習のねらいをリンクさせた単元構想の設定の工夫

○「つきの木タイム」での対話による学び合いの充実

【「つきの木タイム」対話による学び合い】

■□「子どもたちに，思考力や表現力を高める取組をしている。」

◎「あなたは，自分の考えを，進んで元気よく発表できましたか。」



イ 学校運営の状況	学校評価Aと学校関係者評価の評価区分	学校評価Bの評価基準		
	きわめて良好		5	目指す方向が共通理解され取組も組織的で意識が高く成果も顕著
	良好		4	目指す方向が共通理解され取組も組織的で成果が多く見られる
	おおむね良好		3	目指す方向が明確で一定の取組が行われており成果も見られる
	やや不十分		2	目指す方向がやや不明確で取組もばらつきがあり成果が安定しない
	努力を要する		1	目指す方向が不明確で取組体制や取組方に解決すべき課題が多い

V 安全・安心

学校の状況		学校評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
児童生徒の安全確保に取り組んでおり，諸問題への組織的対応が図られている。	前期	おおむね良好	良好	安全面の指導は，やってやり過ぎということはない。特に交通事故防止の指導はこのあとも継続的に行い，事故防止に努めてほしい。地域の方による登校の見守りや，安全に関わる緊急連絡メールによる情報提供は今後も継続をお願いしたい。
	年度			

学校評価の改善概要と	
	【前期（→年度）】〇学級ごとに自転車乗車時，道路歩行時の指導を継続的に実施。また，事故防止については，地域からの情報があったときにはタイムリーに集会や全校放送で指導している。その成果もあり，今年度は大きな事故は発生していない。→油断せず今後も継続的に指導する。〇キョロリンの日（毎月8日）には，スクールガードリーダーを中心に，関係機関，保護者の協力を得て安全指導を行っている。→地域の方々の協力により安全な登下校が身に付いてきている。〇安全に関わる連絡が必要な際は，緊急メールを効果的に活用し，保護者への情報提供を行っている。→今後も継続する。

評価指標	実践課題	主な取組	学校評価B 前期	学校評価B 後期
6 安全教育と安全管理の徹底	（11） 安全教育の徹底による安全意識の高揚	・避難訓練 ・交通安全指導の実施 ・「扇田っ子」の発行 ・お便り・メール等による啓発や注意喚起	3	
	（12） 地域や関係機関と連携した安全指導	・キョロリン隊やスクールガードリーダー，PTAとの連携 ・民生児童委員との情報交換	4	

〔各種データ〕 ※データは（前期）年度 ■職員 □保護者 ◎児童 ★実践事項

［11に関するデータ］

★ 安全意識の高揚

〇「扇田っ子の約束」に基づいた生活の約束の確認

・校内生活の約束（ろうか歩行，時間遵守，遊び方の約束など）

・校外生活の約束（安全な登下校，帰宅時刻の確認など）

・夏休み，冬休み，春休みの過ごし方の約束

〇キョロリンの日（毎月8日） 集団登校で通学路，歩き方の確認

〇交通安全指導（随時）

・1・2年歩行指導 3年～6年自転車乗車に関する指導

〇避難訓練

・地震を想定した避難訓練（5／25）

・不審者対応避難訓練および防犯教室（7／12）

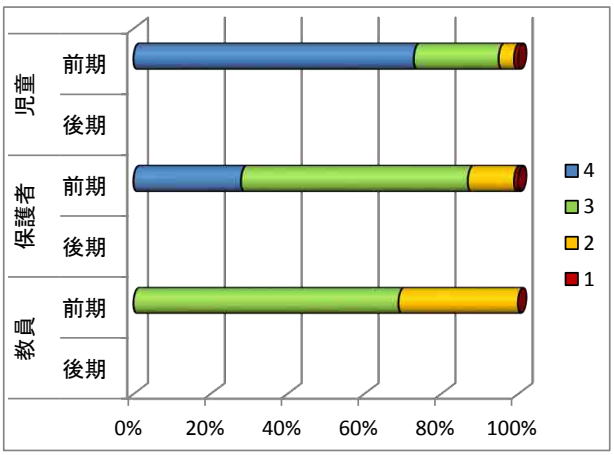
・ミニ避難訓練の実施（休み時間の避難訓練）

【1年生の安全指導】

【地震避難訓練】

■□「子どもたちに安全への意識が育っている。」

◎「あなたは，ルールを守って安全に過ごすことができましたか。」



［12に関するデータ］

★ キョロリン隊やスクールガードリーダー等の連携

・PTA生活環境部 ・交通安全母の会 ・交通安全協会

・警察署（交番） ・スクールガードリーダー

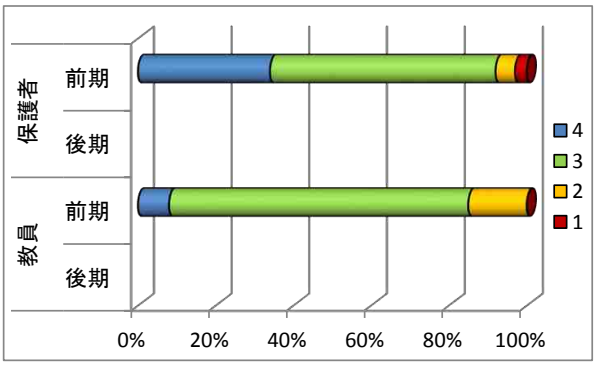
・巡回指導の留意点や最近の状況などについて情報交換

・「キョロリンの日」は各地区登校班ごとに集団登校を実施

【不審者対応避難訓練】

【夏休み前の防犯教室】

■□「保護者や地域の人々の協力を得ながら，子どもたちの安全確保に努めている。」



イ 学校運営の状況

Ⅵ 保護者・地域との連携

児童生徒の状況		学校評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取組が分かりやすく保護者や地域に伝えられ，地域の教育力が有効に活用されている。	前期	良好	良好	ゲストティーチャーによる授業がたいへん充実している。その様子が，学校報を通じて，保護者や地域の方々によく伝わっている。トワイライトコンサート，キッズマートなど，地域が楽しみにしている活動を今後も充実させてほしい。山コチンチコは，コロナの状況にもよるが地域の方々のためにも実施する方向で考えてほしい。
	年度			

学校の評価の概要と改善策	
学校評価の概要と	【前期（→年度）】〇今年度は，子どもたちの学びの様子を家庭や地域に伝える学校報「槻の木」の発行を隔週から毎週の発行とした。そのことにより，タイムリーな情報発信が実現し，保護者アンケートでも高い評価を受けた。さらに学年通信を隔週で発行し，活躍の様子や必要な情報を詳しく伝えている。→子どもの様子についてもこれまで以上に伝えていけるようにしたい。〇地域の方々が学校教育に熱心に協力してくださっており，子どもたちも地域と関わる様々な活動を楽しみにしている。→さらに効果的に活用できるように，またマンネリ化にならないように活動のねらいをしっかりもって継続していきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	学校評価B 前期	学校評価B 年度
7 地域の教育力の活用	（13） 定期的で効果的な情報交換	・各種お便り発行 ・保護者アンケート等による双方向の情報交換	4	
	（14） 保護者や地域住民など人材を活用した豊かな教育活動	・ゲストティーチャー，学習ボランティアの活用 ・地域の「もの・ひと・こと」にふれる体験活動の実施	4	

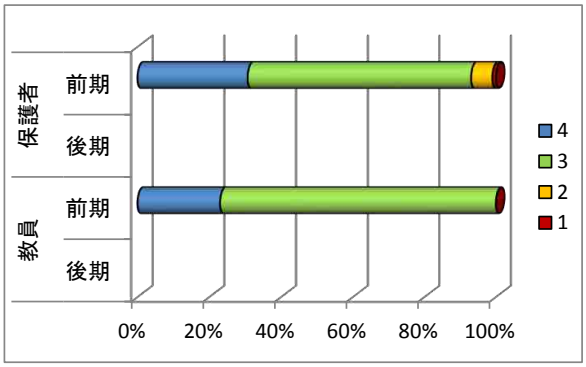
〔各種データ〕※データは（前期）年度　■職員　□保護者　◎児童　★実践事項

［15に関するデータ］

★ 各種お便り発行
- 〇学校報「槻の木」の発行と配布
  - ・毎週発行（学校の出来事，トピックス，学校の願い）
  - ・評議員，町内会長，民生委員，元校長に地域へ配付
- 〇学年だよりの配付
  - ・隔週発行（学年の出来事や次週の予定）

★ 保護者アンケート等による双方向の情報交換
- 〇学校教育アンケートの実施（2回）と結果・対応の公表
- 〇学校開放日の設定（7月・12月）
- 〇教育相談日などによる生徒指導的情報の交換
  - ・毎学期実施する教育相談週間
  - ・スクール・カウンセラーによる教育相談
  - ・学担による個人面談
  - ・民生委員訪問による情報交換
  - ・各関係機関との連携（市教委，少年相談センター，福祉部子ども課，児童相談所，小・中・幼・保）

□■「効果的に学校の様子を情報発信している。」

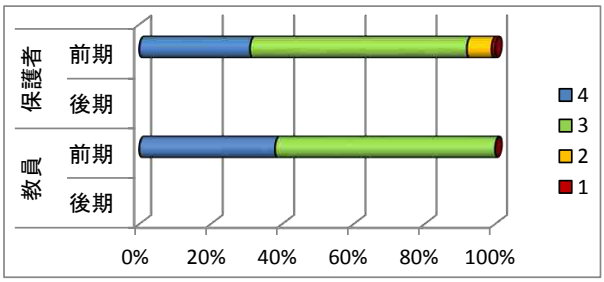


［16に関するデータ］

★ ゲストテイチャー・学習ボランテイアの活用（槻の木サポーター）

★ 人とのふれあいを生かした体験活動の充実
- 〇正課クラブ活動講師
- 〇講師による授業支援（書写指導）
- 〇トワイライトコンサート（9／17）
- 〇キッズ・マート大作戦（後期に実施）
- 〇ふるさと集会（達子森登山）
- 〇山コチンチコ灯籠パレード（今年度はコロナにより中止）

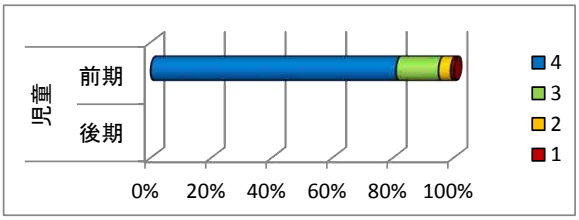
□■「人材を活用した豊かな活動が行われている。」



【講師による書写指導】

【講師によるFC教育授業】

【講師による正課クラブ指導】

【講師によるSDGs理科授業】

◎「あなたは，地域の人やお家の人などが学校に来て勉強を教えてくれたり，手伝ってくれたりする授業や体験活動が楽しいですか。」